2018 年度活動報告　CJP 授業：プロジェクトワーク書く A

郷矢　明美・中野　陽・瀬井　陽子
（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは文章で表現する作品制作を学期の課題とし、課題達成のための話し合いや作品作りを通じて、総合的な日本語力を身につけることを目標に開講された。対象はレベル 3（中級前半）以上の学習者（実際の受講者は秋学期にレベル３を修了した 3 名）で、授業は週３-４コマ、全 14 回であった。授業では自分史の作成を通し、過去、現在、未来の自分について考えた。また、クラスメイトやボランティア学生との協働的な活動により、表現形式に関する知識を共有したり読み手に分かりやすい書き方を検討したりした。

2. 授業内容

自分史は、第１章「留学する前の私」、第２章「今留学している私」、第３章「留学後の私」の３章構成とした。執筆に入る前に、参考として歴史上の人物の伝記や前年度受講者の成果物を読む活動を行った。また、「人生グラフ」（時系列に自分の経験を書き、その当時の幸福度を指数化して推移をグラフ化したもの）を作った。これをもとに、全体の構成や章・節のタイトルを決定した上で、各章・節の本文を書き始めた。また、執筆作業と並行して、１）インタビュー、２）便利な表現の共有、３）ボランティア学生との協働作業も実施した。１）は、自分史に他者からの視点も盛り込むため、自分をよく知る人物に聞き取りを行う活動、２）は各受講者が執筆の際に調べた表現形式のうち、自分史に有益であると思うものを、その機能や例文とともに紹介し合う活動、３）は各章の初稿を執筆した時点で、日本語ネイティブのボランティア学生から全体の流れや適切な表現に関するアドバイスを受け、推敲のための示唆を得る活動であった。授業の最終回には他のプロジェクトワークと合同で発表会を行い、受講者たちは「人生グラフ」を見せながら執筆の際に苦労したことを述べたり、特に思い入れのある箇所を朗読したりしていた。

3. 成果と今後の課題

受講者へのアンケートでは、自分史執筆だけでなく各活動についても「有意義であった」「自分のことがより深くわかった」という好意的なコメントが大半であった。ただし執筆の参考に行った、伝記などを読む活動が長すぎた、という声もあがっていたため、今後は、読む活動を 2 コマから 1 コマに減らし、より早い段階から書き始められるようにしたい。